

九条の会は、戦争をしないと決めた「憲法九条を変えてはいけない」の一点で立場や考え方、世代の違いを超えて多くの人と共同し、この憲法を活かし、平和のための活動を行う会です。みなさんの賛同、ご支援をお願いします。

親と子の 人形劇、手品など多彩な内容

8月6日(土)「親と子の平和まつり」が、「あんきの家細畑」において、大人と子供と60余名の参加で開催されました。5回目を迎えた今回は、開会あいさつの後、人形劇、おはなし、手品、原発についてのトークなどの内容。また、ケーキタイ



人形劇は、昨年に引き続き人形劇団モンメールのみなさんによる“幸福な王子”と“大きなかぶら”が演じられました。

“幸福な王子”は、オスカー・ワイルドの子供向けの短編小説。哀愁を秘め、感動的に演じられました。

“大きなかぶら”では、みんなが力をあわせると大きなことも達成できるという象徴的な作品でした。

いろいろな動物のぬいぐるみを着た子供たちの、笑顔が会場いっぱいに広がり、楽しい時間になりました。

おはなし“やまんばのにしき”は、日本の民話から松谷みよ子さんが脚本化された作品で、小池絃美さんが演じられました。

牛方が、薄気味悪い山道を抜け、お花畑に出たところ美しい娘に出会います。ついふらふらとなったところで、山姥が正体を現し、牛方を追い始めます。牛方が逃げ込んだ留守家に帰ってきたのは山姥。鯖も牛も食って腹一杯で寝込んだ山姥を、牛方は大釜に閉じこめて火をつけます。

おどろおどろした何とも切なく、こわ〜いむかし話で、小池さんならではの、みごとな語り口が印象的でした。

原発問題トークでは、原発の科学的な反応構造、放射性物質と身体影響、あやうい原子炉の構造、過去の事故と人的被害、予想される被害などが問題提起されました。

また、原発マネー問題、平和利用ということでの教育、やらせメール問題など、歴代政府が強引に進めてきた原発推進の政治的意図はなにか。永久的ともいえる核廃棄物を残して、私たちの時代が未来の人類、地球全体に責任を負えるのか。

考えさせられることでいっぱいでした。
(裏面に原発特集記事を記載)



幸福な王子 町の中心部に聳え立つ自我をもつ金箔の王子像が、いろんな話をしてくれるツバメと共に、さまざまな苦勞や悲しむ人々のために慈愛の心で自分の持っている宝石や体を覆っている金箔を分け与えていくという自己犠牲の物語。最後は、金箔の剥がれたみずぼらしい姿になった王子と、

大きなかぶら おじいさんが、努力してそして、とっても大きなかぶりができました。おじいさんは「うんとこしょ どっこいしょ」と抜こうとしますが抜けません。おばあさんとふたりでも抜けません。子供たちの出番です。いぬ役、ねこ役に扮して「うんとこしょ どっこいしょ」それでもかぶらは抜けません。おさる役、にわとりさん役、多勢が力を合わせて、大きなかぶらを引っこ抜こうと、会場の皆さんの掛け声も一緒になって「うんとこしょ どっこいしょ」...そして、やっとかぶりが抜けました。



おいしい富沢さんの手作りケーキに舌鼓。



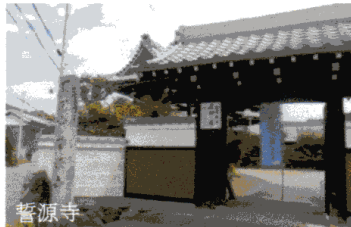
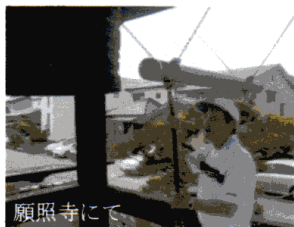
おはなしの語り手、小池さんの語り口。

子供の部屋では、手品
和田勉さんの見事な手品に子供たちはみんな“あーら不思議”

【平和の鐘】

今年も平和の鐘をつきました。
岐阜空襲の日を記念して、毎年、7月7日に行われている行事で、地域（長森、日野）内9ヶ所の寺院で平和の鐘が打ち鳴らされます。

私たち九条の会でも、これに参加しようと8名が参加しました。各お寺では、よく歓迎されました。また、私たちだけではなく、地域の人、子供も撞きに来ていて、この行事が続くことで、将来にわたって平和への願いが続いてゆくのだろうと思いました。



願照寺にて

誓源寺

【パネル活動】

毎月9日には、「憲法9条を守ろう、核兵器を世界からなくそう」の大パネルをJR長森駅の北側に掲示しています。催しの案内パンフの配布や、ニュースの配布もしています。皆さんも参加してくださいね。
〔毎月9日AM6:50~8:00〕



【元原発建設技術者：菊池洋一氏】

考察コーナー(2)

私は1973~80年にGE社員として福島第一原発と、日本原電・東海第二原発の建設に携わりました。
原発に何の危惧も抱かず、技術力を信じて飛び込んだ仕事です。試運転前の多くを現場で経験しました。
働いて痛感したのは、原子力の技術が全然確立していなかったこと。安全性への不安、不信に耐えられなくなり、80年にGEを辞めました。
米国人技師らに地震の実感なく、福島原発建設中に震度2~3程度の地震があり、米国人技師らが青ざめていました。

1) 配管

- ・原発内部は重い配管が多数、複雑に張り巡らされ、配管の「お化け」。
配管は宙づり状態。(原子炉運転時の高温(約280)度→熱膨張変形対策)
- ・地震の時、建屋内の作業員は、配管がぶつかりあう恐ろしい音を聞いたそうです。配管に亀裂が入ると、冷却機能は失われ、原子炉は暴走します。

2) 原子炉の基礎(土台)

- ・約2千トンものカプセル型の原子炉を非常に厚さの薄い「スカート」という「輪っか」状の台に溶接して、コンクリートの上に置いてあるだけ。
→突き上げるような直下型地震では、どうなるやら。

3) 原子炉の建屋

- ・上部はクレーンが動き回るため、外郭以外は、柱のない弱い構造で屋根は薄っぺら。⇒安全は作りばなし。



「フクシマを教訓に今度こそ原発から脱却を」
こう語るのは、東京電力・福島第一原発の建設に携わった米電機大手ゼネラル・エレクトリック(GE)社の技術者、菊池洋一氏。41年岩手県生まれ鹿児島大非常勤講師著書「原発を作った私が、原発に反対する理由」(角川書店)

【原発問題と憲法】

〔1〕歴代政府が原発推進した理由は？
(自民党の〇〇氏)

原発を持つことにより、いつでも核兵器を作る能力があることを堅持することにより、国際的な発言力を得ることが出来る。

〔2〕多額な開発費をつぎ込んだ理由

上記の発言で全てが明白になったと思えます。冷静に考えれば、費用が掛かり、しかも技術未完成で、事故の危険性も大きい原発を、なぜ進めなければならなかったか。

これに躍起になり、強引にマスコミも総動員し多額の費用を注ぎ込み進められてきました。

〔3〕日本国憲法を活かすとき

日本国憲法前文にいわく。(抜粋)

われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたって自由のもたらす恵沢を確保し、再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意する。

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼し、われらの安全と生存を保持しようと決意した。

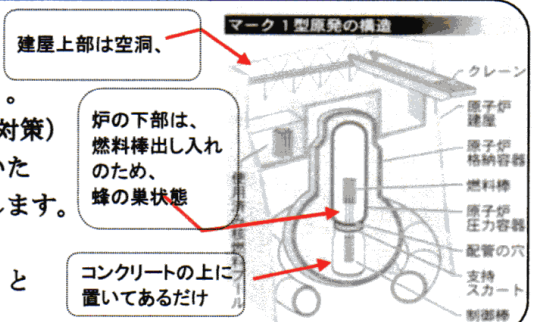
われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において名誉ある地位を占めたいと思ふ。

われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

〔4〕憲法を守ること

原発推進が、憲法の本質と反する意図、政治的な意図で進められてきたところに、結局は安全軽視人命軽視になっていると思われてなりません。

まして、数十万年先の子孫にまで禍を残すこと(核廃棄物)は、許されることではありません。



お知らせ 2011平和のつどい

とき：2011年10月30日(日) 13:30~
会場：岐阜市民会館大ホール



記念講演
講師：澤地久枝さん(作家、「九条の会」呼びかけ人)
「明日の世代のために…いま私が願っていること」
研読：岸武雄著「わたしはひろがる」 など

主催：岐阜地区内の30「九条の会」で構成/事務局：岐阜・九条の会
後援：岐阜市教育委員会
協力：「九条の会・岐阜県連絡会」「9条を守る岐阜県連絡センター」